

くつつろぎ

く特養かわら版く 令和2年10月号

こんなことがあったとさ



今日はアイスの日です

今年、特養の夏祭りがコロナの影響のため、中止となってしまいました。その代わりに、何か夏っぽいことをやろう！ということで、アイスを食べました。



こんなことやります

毎月実施していた音楽療法は、お休みです。
 宇賀神床屋(毎月)は再開して(月2回)。
 10月 1日(木) 化粧クラブ
 10月 4日(日) カラオケクラブ
 10月 17日(土) 書道クラブ



えちゃんの「やんわりした」人生の歩み方

「言葉」の力

私たちは誰しもが、生まれてすぐに強力な武器を身に付けるよう訓練します。「言葉」という武器。例外はいくらでもありますが、一般的には自分を生んでくれた両親や家族、関係のある人々から言葉をかけられたり、色々な場面で使われる言葉を見ながら徐々に身に付けていくはず。

「言葉」という武器。この武器を適切に使用すれば、人を幸せにすることが出来ます。感謝の言葉、愛情ある言葉、温かい言葉。たった一言で、人の心を癒したり、助けたり、励ましたり、感動したり、導いたりすることが出来ます。誰かのための言葉が、自分自身を救う事もあります。それぐらい、「言葉」には強力な力が宿っていて、時として人の一生を左右するほどの影響力を持っているたりもします。「言葉」は、その人の物の見方や考え方も、そして喜びも悲しみも、楽しみも怒りも、快適も不快も、心の中身を表現しながら同時に心の中の感性を育てています。しかし、この強力な「言葉」という武器をあまりに軽率に、不適切に、間違った方向に使っている人が気になります。

「言葉」は使い方を間違えると、簡単に人を傷つけ、時として存在すら消し去ってしまうほどの力を持っています。

自身の不快な感情をそのまま暴言として吐き出す人、相手を否定する人、自分より相手が弱者だと分かる途端に高圧的な言動を発する人、相手が不安や苦しむ発言を浴びせることで優越感や快楽を感じてしまう人。理由を問えば「自分は言いたいことを言っている」とばかりに、自身を正当化しますが、そんなただの暴力です。他人を困らせ苦しめる事で快感を得る事が身に付いてしまつと、その業から抜け出すことは出来ないうでしょう。

相手を、「言葉」を使って攻撃しても、結局は自身を蝕むばかりで、良い事は一つありません。せっかく、「言葉」という力を身に付けたのであれば、それを正しく誰かのために、そして自分のために使う事が、一人ひとりの役割だと思っています。

特養生活相談員

畑中

元

職員紹介コーナー

グエン ティ クイといいます。

ひまわりの丘で働き始めて4年目になります。日本での生活にもだいぶ慣れてきました。

今年のリフレッシュ休暇は、ベトナムに帰国して、家族や友人と過ごす予定でしたが、コロナの影響で帰国するのは難しそうです。その分、来年帰国したらゆっくり過ごせたらいいなと思います。

これからもよろしくお願いします。

編集後記

こんにちは。特養の松本です。

特養のアイスの日、私は勤務ではなかったのですが、どんな感じだったのかを直接は目にしていません。

でも、アイスにかぶりつく入居者の様子やその入居者と一緒に楽しそうに笑っている職員の写真を見て、「ああ、楽しかったんだろうな」ということがすぐ想像できました。

百聞は一見に如かず、という言葉もありますが、「写真」の伝える力の大きさを感じると共に、くつろぎ新聞を通して、ご家族の皆様へご入居者の様子を伝えられるよう改めて頑張らねば、とアイスの写真を見て気持ち改めた次第です。次号では、特養敬老会の様子をお伝えしたいと思います。

